

平成25年（2013）4月 入域観光客数概況

4月の観光客数は、51万6,300人
対前年（H24）同月比 +4万5,200人、+9.6%
～4月では過去最高の水準～

入域状況

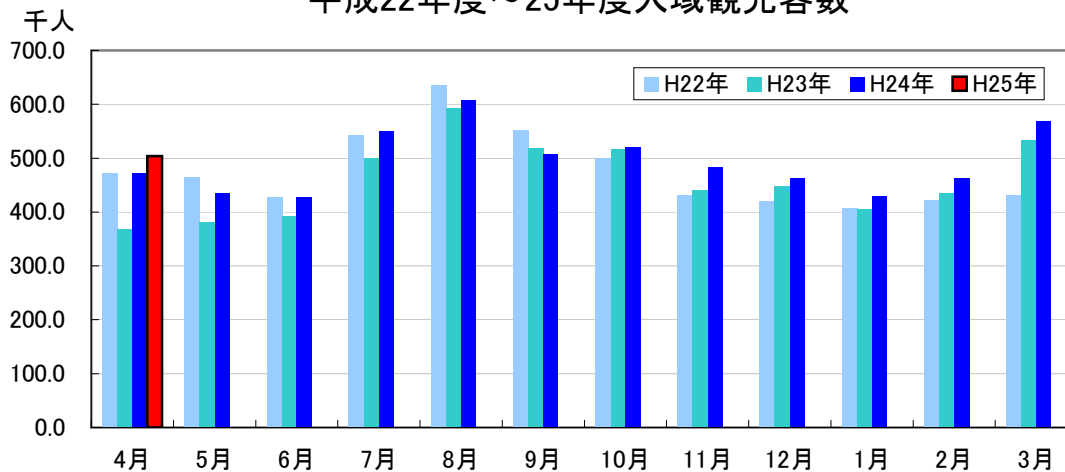
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	466,400 人	436,800 人	+ 29,600人	+ 6.8%	92.5%
外国客	37,600 人	26,500 人	+ 11,100人	+ 41.9%	7.5%
合計	504,000 人	463,300 人	+ 40,700人	+ 8.8%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	466,400 人	436,800 人	+ 29,600人	+ 6.8%	90.3%
外国客	49,900 人	34,300 人	+ 15,600人	+ 45.5%	9.7%
合計	516,300 人	471,100 人	+ 45,200人	+ 9.6%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、TDR30周年関連商品等との競合で苦戦が予想されたものの、3月からの石垣方面への客数が引き続き増加していること、GWの空路予約も前年並みを維持したことから、好調に推移した。

5月はGWを除いてエアライン、旅行商品ともに予約状況が鈍化しているが、石垣方面、宮古方面への入域は好調なことから、前年並みを維持する見込み。

外国客 入域状況

4月は航空路線が拡充、クルーズ船寄港回数が前年を上回った台湾からの観光客を中心に増加し、前年度実績を上回った。

5月も引き続き、昨年末からの航空路線就航により客数を伸ばしている韓国、新規航空路線の就航を予定している台湾からの観光客増加が予想され、好調な推移が見込まれる。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	227,700 人	209,200 人	+ 18,500人	+ 8.8%	48.8%
関西方面	94,800 人	86,900 人	+ 7,900人	+ 9.1%	20.3%
福岡方面	53,800 人	53,300 人	+ 500人	+ 0.9%	11.5%
名古屋	39,800 人	37,700 人	+ 2,100人	+ 5.6%	8.5%
その他	50,300 人	49,700 人	+ 600人	+ 1.2%	10.8%
合計	466,400 人	436,800 人	+ 29,600人	+ 6.8%	100.0%

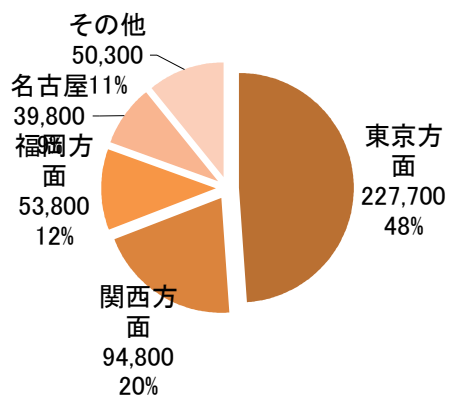
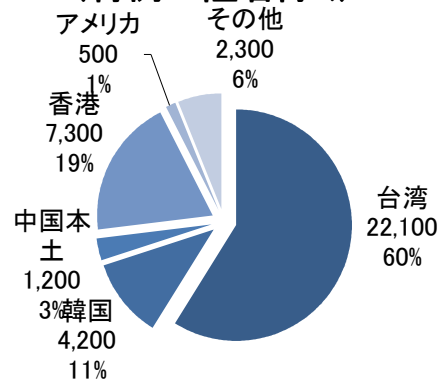
※国内海路客 2,000人を含む(関西方面:100人、鹿児島:2,000人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	22,100 人	22,100 人	14,200 人	+ 7,900人	55.6%	44.3%
韓国	4,200 人	4,200 人	2,100 人	+ 2,100人	100.0%	8.4%
中国本土	1,200 人	4,000 人	5,700 人	△ 1,700人	△29.8%	8.0%
香港	7,300 人	7,300 人	4,400 人	+ 2,900人	65.9%	14.6%
アメリカ	500 人	500 人	600 人	△ 100人	△16.7%	1.0%
その他	2,300 人	11,800 人	7,300 人	+ 4,500人	61.6%	23.6%
合計	37,600 人	49,900 人	34,300 人	+ 15,600人	45.5%	100.0%

国内客の地域構成

外国客の国籍構成比
(特例上陸者除く)

外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	10,500 人	10,500 人	+114.3%	42.0%	11,600 人	11,600 人	+24.7%	46.6%
韓国	4,100 人	4,100 人	+95.2%	16.4%	100 人	100 人	皆増	0.4%
中国本土	1,200 人	1,200 人	△69.2%	4.8%	0 人	2,800 人	+55.6%	11.2%
香港	6,800 人	6,800 人	+58.1%	27.2%	500 人	500 人	+400.0%	2.0%
アメリカ	500 人	500 人	△16.7%	2.0%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	1,900 人	1,900 人	+26.7%	7.6%	400 人	9,900 人	+70.7%	39.8%
合計	25,000 人	25,000 人	+44.5%	100.0%	12,600 人	24,900 人	+46.5%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

海炎祭等のイベントが好評につき、個人旅行、団体旅行を中心に好調に推移した。石垣方面及び宮古方面の旅行も好調であった。
5月下旬は現時点で鈍化しているものの、6月以降は前年並みに推移する見込みである。宮古方面、新規航空路線が就航した石垣方面については増加傾向にあり、好調な推移が期待できる。

大阪

4月は旅行会社、航空会社ともに前年並みの実績を維持したのに加え、引き続きLCCの誘客効果がみられ、好調に推移した。GWは特に神戸からの客数が増加した様子。
今後は、国内競合地の好調により苦戦を強いられる状況に変化はないが、6月以降、航空路線の新規就航や増便が相次ぐことから、旅行需要の拡大が見込まれ、好調な推移が期待できる。

福岡

競合地も含め、旅行市場が低調の様子だが、個人客を中心に増加した。
TDR関連商品の好調の反動により沖縄向けの家族旅行が伸び悩んでいるため、旅行社が価格訴求型商品を追加するなど対策を講じている。個人旅行に適した便の再開や7月からの石垣路線の再開等により回復するか注視する必要がある。

名古屋

1月以来、好調を維持しており、特に新規路線の就航による八重山地域への旅行需要が高まり、順調に推移した。また、高級リゾートの宿泊商品も好調であった様子。
今後は、GWは好調だが、以降の予約状況は鈍化しており、また、LCCの競合地への就航の影響も懸念される。

台湾

航空路線の再開や増便に加え、円安も追い風となり、クルーズ客や個人旅行客を中心に好調に推移した。
今後は大型連休はないものの、石垣路線の就航が予定されていることから石垣島への旅行需要の増加が見込まれるとともに、既存路線も増便となることから、空路、海路ともに順調に推移していくと予想される。

韓国

航空路線の減便があったものの、円安の影響で個人旅行の需要が持続し、好調に推移した。
6月の連休や7月中旬からの夏休みに加え、7月からは航空路線が増便となることから、旅行需要の拡大が見込まれ、好調な推移が期待できる。

中国本土・北京

訪日旅行は回復傾向にあるものの、沖縄については直行便が引き続き運休中、訪沖団体ツアーもなく、鈍化している。
6月は観光市場の閑散期であるが、7月中旬からの夏休み以降は家族連れ団体旅行の増加が見込まれる。ただし、日中両政府の動きが直結する地域のため引き続き注視する必要がある。

中国本土・上海

旅行会社による訪日商品PRが小規模であるためか、団体旅行は依然として動きが鈍いが、もともと落ち込みの少なかった個人旅行は回復傾向にある。
5月以降、インセンティブツアーが予定されているのに加え、個人旅行客の旅行需要も安定的な増加が見込まれる。

香港

円安や格安航空券販売の影響に加え、イースターホリデーや清明祭の休暇を利用した旅行需要が高く、個人旅行、団体旅行ともに好調に推移した。機材の大型化後も、安定した搭乗率を確保しており、客数増加に好影響を与えている。
今後も労働節、佛誕節等の休暇や6月中旬からの夏休みシーズン突入に伴い、旅行需要の伸びが予想される。